

Preface はじめに

外国語学習において、どうしても避けて通れないのが単語と文法です。これをもっと楽しく、そして知的な読解を通して深めていけないかと私たちは考えてきました。そんなときに、英米で広く読まれている名作を題材として、単語や表現を中心に学べる本にしてみようということになりました。大人が読んでも楽しめる文学作品の「冒頭」部分を読むことで、そこに出てくる単語、コロケーション、文法が理解でき、頭に入ってくるような解説を付けました。ストーリーと一緒に頭に入れておくだけで、「あの物語に出てきた単語だ。あのときは、こんな意味で使われていたから、今回も同じ意味になるだろう」と記憶から簡単に引き出すことができるようになるはずです。

ここで扱っている単語や表現は、日常生活でお目にかかることが少ないと思われる方もいらっしゃると思います。各種検定試験の単語リストと違うかもしれないと感じるかたもいらっしゃるかも知れません。例えばみなさんは、「メロスは腕に唸(うな)りをつけてセリヌンティウスの頬を殴った」という文を読んだときに、何事もなく意味がわかるはずです。「腕に唸りをつけて」という表現から、メロスが思いっきり腕を振りかぶった姿が目に見えればわかります。ですが、私たちは日常的に「腕に唸りをつけて」という言葉を使うことはありません。自分が使わなくても、意味がわかるということが重要なのです。単語を覚えるということは自分が使う、使わないという基準ではないのです。覚えた単語が次に出てきたときに、違う文章の中にあっても意味がわかるという状態にしなければならないのです。メロスの例に戻りますが、私たちは「唸る」という単語をどこかの段階で覚えたのです。それを覚えて、知っていたからこそ、この1文を読んで、「メロスが思いっきり腕を振りかぶってセリヌンティウスの頬をぶ殴った」ということが理解できるのです。極端な例だったかも知れませんが、様々な単語を貪欲に覚え、頭の中に入れておけば、そのうちどこかで役に立つときが来る(かも知れないし、来ないかも知れない)のです。

文学作品は、情景描写や心理描写のための単語や表現などを学ぶのに適しています。

今回、lurch「千鳥足で歩く」という単語を扱いましたが、これは英検1級に出てくるような単語です。このような単語を単語のリストで覚えようとする、「どこで使うかわからないけれど、とりあえず覚えておくか」と訳語を暗記することになります。しかし、本書を通じて文学作品の中で出会うことで、このような単語も具体的なイメージを持って覚えることができるでしょう。イメージを伴って覚えた単語は忘れにくいものです。

さらに、普段は文学作品を読まない、という人もぜひ本書を通じて英語を学びながら文学作品を楽しんで欲しいと思います。「タイトルやあらすじは知っていたけど、英文で読んだことがない」という人にもきっと新しい発見があるでしょう。

作品の選定から、扱う単語やコロケーション、文法項目に至るまで倉林と石原で常に連携しながら、互いの足りない部分を補い合いながら、地道な執筆を支え合いながら進めてきました。さらに、本書の企画段階から完成に至るまで全ての内容に目を通し、著者たちと議論をくり返ししながら、的確な助言をしていただくだけでなく、発音記号の確認といった最も煩雑な作業をお手伝いくださった、くろしお出版の岡野秀夫さんと、池上達昭さんには感謝申し上げます。このような試行錯誤の中から生まれた本書を通じて、読者の皆様の英語学習に役立つと同時に、文学作品を楽しむきっかけにもらえたら幸いです。なお、本文に対する和訳は既に出版されている多くの翻訳を参考にしていますが、単語学習を優先し、原文の直訳に近い形になっています。興味を持った作品があれば、続きを優れた翻訳を脇に置きながら、原文にチャレンジしてください。

2024年12月
倉林秀男 石原健志



本書の構成

本書は英米文学の名作8作品の冒頭部分を取りあげ、その中に出てくる身につけてほしい単語を中心に解説をしました。本書の構成は下記のようになっています。

本文

文学作品の冒頭部分の英文です。
身につけてほしい英単語、熟語等は青字にしています。

意味

本文の日本語の訳例です。青字の英単語に対応した日本語訳も青字にしています。本文の内容に興味を持ったら、訳書や原書にチャレンジしてみましょう。

本文 ③

It had been agreed that they should all meet in the big **barn** as soon as Mr. Jones was **safely out of the way**. Old Major (so he was always called, though the **name under which** he had been exhibited was Willington Beauty) was so highly **regarded** on the farm that everyone was quite **ready** to lose an hour's sleep in order to hear **what he had to say**.

意味

ジョーンズ氏が無事に離れたところに移動したところで、全員が大きな納屋に集まる手はずになっていた。メイジャー遊さん（このようにいつも彼は呼ばれていたが、品評会の時はウイリントンビューティという名前であった）は農場では高く評価されており、彼が言うことを聞くためならみな1時間ぐらい睡眠を削ってもよいぐらいだった。

単語・語法

it is agreed that s+v
s+vする手はずだ

s+vすることに合意しているという定形表現。

it has been agreed that...の正は後ろに続くthat節を指す形式主語。

■ Now it has been agreed that talks will continue without a fixed deadline.
(現在、期限を定めずに協議を続けることで合意している。)

barn /bɑ:rn/

納屋

safely /sæfli/

無事に、安全に、間違いなく

【文法】 It can safely be said that s+vや I can safely say that s+vのように「言う」「考える」を表す動詞と共に用いられると「間違いなくs+vだろう」や「s+vと違って差支えないだろう」という意味になることも覚えておきたい。

30

out of the way

邪魔にならないところへ、離れたところに ▶ cf. P13

【文法】 move, stay, liveなどの動詞と共に使うことが多い。

the name under which ...

～する名前

the name under which s+vで「s+v(のとき)の名前」。

▶ the name under which his books were published, H. G. Wells 本が出版されたときの名前、H. G. Wells

【文法】 whichの後にto doが続くこともある。

▶ the name under which to save a file: ファイルを保存するときの名前

regard /rɪɡɑ:d/

～を評価する

A is highly regarded / regard A highly

Aが高く評価されている / Aを高く評価する

≡ evaluate A highly / A is highly evaluated

ready to do

進んで～する、～する準備ができている

■ She is always ready to do a lot for others.

(彼女はいつも進んで他人のためにたくさんのお世話をしてくれる。)

【文法】 be ready to doは「積極的に～する」という意味を含む。これに対して、be willing to do(～するのをいとわない、～してもかまわない)はそれほどの積極性はないので注意。本文ではquite ready(比較的すすんで)となっていることから、「～してもよいくらいだった」となっている。

文法のポイント

... in order to hear **what he had to say**.

what S have to say は「言わなければならないこと」ではない。

what S have to say と来たなら「Sが言うために待っていること」⇨「Sが言わんとすること」【文法】 評価することが多い。これはwhatがsayの目的語ではなく、haveの目的語と捉えるためである。

31

単語・語法

英単語、熟語、連語などについて詳しく解説しています。英単語には発音記号をつけました*。また、関連情報を「さらに」として収録しています。

* 発音記号は、IPAと基本として、国内外の辞書の発音記号を参考にしました。

文法のポイント

英文を読む際に押さえておきたい箇所には文法解説をつけています。

聞いてみよう

Alice's Adventures in Wonderland

Lewis Carroll

Alice was beginning to get very tired of sitting by her sister on the bank, and of having nothing to do once or twice she had peeped into the book her sister was reading, but it had no pictures or conversations in it, "and what is the use of a book," thought Alice "without pictures or conversations?"

So she was considering in her own mind (as well as she could, for the hot day made her feel very sleepy and stupid), whether the pleasure of making a daisy-chain would be worth the trouble of getting up and picking the daisies, when suddenly a White Rabbit with pink eyes ran close by her.

There was nothing so very remarkable in that; nor did Alice think it so very much out of the way to hear the Rabbit say to itself, "Oh dear! Oh dear! I shall be late!" (when she thought it over afterwards, it occurred to her that she ought to have wondered at this, but at the time it all seemed quite natural; but when the Rabbit actually took a watch out of its waistcoat-pocket, and looked at it, and then hurried on, Alice started to her feet, for it flashed across her mind that she had never before seen a rabbit with either a waistcoat-pocket, or a watch to take out of it, and burning with curiosity, she ran across the field after it, and fortunately was just in time to see it pop down a large rabbit-hole under the hedge.

In another moment down went Alice after it, never once considering how in the world she was to get out again.

The rabbit-hole went straight on like a tunnel for some way, and then dipped suddenly down, so suddenly that Alice had not a moment to think about stopping herself before she found herself falling down a very deep well.

20

聞いてみよう

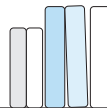
本文を通して聞けるよう、各章で取り上げた英文を再録しています。音声は、次のサイトで聴くことができます。
(https://www.9640.jp/books_995/)。



主な略記号

名	名詞	〈 〉	まとまった表現、定義
動	動詞	=	同義語
助	助動詞	≒	類義語
形	形容詞	⇔	反対語
副	副詞	(s), (S)	subject、主語
前	前置詞	(v), (V)	verb、動詞
接	接続詞	(o), (O)	object、目的語
間	間投詞	do	動詞の原形
	米音・英音の区切り	doing	動詞の -ing 形 (動名詞または現在分詞)
()	①省略可、②日本語訳	done	動詞の過去分詞
[]	単語の補足情報	one	人
[]	言い換え可能	oneself	再帰代名詞 (その人・それ自身)
()	語義の概念	▶cf.	～を参照

Contents もくじ



Chapter 1

ALICE'S ADVENTURES IN WONDERLAND 『不思議の国のアリス』

作者 ルイス・キャロル Lewis Carroll 出版年：1865 年 7

Chapter 2

Animal Farm 『動物農場』

作者 ジョージ・オーウェル George Orwell 出版年：1945 年 23

Chapter 3

A Christmas Carol 『クリスマス・キャロル』

作者 チャールズ・ディケンズ Charles Dickens 出版年：1843 年 39

Chapter 4

1984 『1984』

作者 ジョージ・オーウェル George Orwell 出版年：1949 年 53

Chapter 5

Pride and Prejudice 『高慢と偏見』

作者 ジェイン・オースティン Jane Austen 出版年：1813 年 67

Chapter 6

The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』

作者 スコット・F・フィッツジェラルド F. Scott Fitzgerald 出版年：1925 年 93

Chapter 7

The Picture of Dorian Gray 『ドリアン・グレイの肖像』

作者 オスカー・ワイルド Oscar Wilde 出版年：1891 年 111

Chapter 8

Wuthering Heights 『嵐が丘』

作者 エミリー・ブロンテ Emily Brontë 出版年：1847 年 129

Chapter 1

ALICE'S ADVENTURES IN WONDERLAND

『不思議の国のアリス』

作者 ルイス・キャロル Lewis Carroll

出版年：1865 年

今でも読み継がれる不朽の名作といってもよい『不思議の国のアリス』は、オックスフォード大学の数学科教授チャールズ・ドジソンによって書かれました。ドジソンは出版の際に筆名をルイス・キャロルとしました。

この物語は、幼いアリスが目の前を「なんてことだ、遅れちゃう」といいながら横切ったウサギに驚き、追いかけていくとウサギの穴に落ちていくところから始まります。たどり着いた部屋で見つけた小瓶を手に取り飲み干すと、体が小さくなってしまいます。そして困っているところで目の前にあったケーキを食べると今度は体がどんどん大きくなり、悲しくて涙があふれ出してしまいます。彼女の涙はみるみるうちに大きな池になります。再び体が小さくなった彼女は自分の涙の池にはまり、集まった動物たちに助けてもらいます。その後、アリスはチェシャ猫、ねむりねずみ、おかしい帽子屋、トランプの兵士や女王に会い、いくつもの不思議な体験をします。

Alice was beginning to **get** very **tired of sitting** by her sister on the **bank**, and of having nothing to do: **once or twice** she had **peeped** into the book her sister was reading, but it had no pictures or conversations in it, “and what is the **use** of a book,” thought Alice “without pictures or conversations?”

意味

アリスは川岸の土手でお姉さんの隣に座り、そして何にもすることがないのでとてもつまらなくなってきました。一、二度お姉さんが読んでいる本をこっそりと見たのですが、挿絵も、会話ありませんでした。「この本は何の役に立つの？」とアリスは思いました。「絵もおしゃべりもないなんて」

単語 語法

get tired of *doing*

～がつまらなくなる、～に飽きる、～にうんざりする

bank /bæŋk/

名 川岸、土手、湖岸

銀行の bank とは語源が異なる。北欧のノルド語の「砂州」などから由来していると考えられる。

once or twice

数回、何度か、一度か二度

さらに not once or twice では「一度や二度ではない」から「何度も」という意味になる。

peep /pi:p/

動 こっそりと見る、チラッと見える

peep into で後ろに「本」や「部屋」などの語句が続き、「こっそりと何が書かれているか [何があるか] 覗く」という意味になる。

peep through は後ろに「カーテン」「ブラインド」「鍵穴」などが続くと「すきま (aperture) から覗く」という意味になる。

peep at A は「文字」「人」などの語句が続き、「A をこっそり覗く」。

» peep at us from behind the curtain カーテンの陰から私たちをこっそり覗く

peep over A は「身体部位」や「壁」などの視界を遮るものが続き、「A 越しに覗く」「A の向こうを覗く」。

» peep over *one's* shoulder 肩越しに覗き込む

use /ju:s/ 発音注意

名 使うこと、使い方、使用、〔否定文・疑問文で〕役立つこと

■ Is there any use in saying that sort of thing?

(そんなことを言っても何になるのですか?)

「役に立つことがあるか?」という表現が使われるときは基本的には「反語」の意味を持ち、「そんなことを言っても何にもならない」となる。



文法のポイント

“and what is the use of a book,” thought Alice “without pictures or conversations?”

主語 + think / ask / say などの伝達節の倒置

この文の thought Alice は主語と動詞が入れ替わった倒置形。ここでは「本って何の役に立つの」と読み手に伝え、その後に「そう思ったのはアリスでした」のように、「思ったのは誰か」に焦点を当てるために倒置させている。またその後には〈条件〉として without ... (～がないのに) が続く。

ちなみに、what is the use of a book という疑問文は、アリスがさし絵も会話もない本のことを「そもそも役に立たない」、「ちっともおもしろくない」つまり「何になるのか?」と思っていることを伝えている。否定的に自分の主張を強く述べるときに、強調して表現したい場合、疑問文で表すことがある。このように、疑問文を用いて、自分の考えを反語として述べる文を修辭疑問文と呼ぶ。発音をするときのイントネーションは下降調になる。